
Alma ルックアップ サービス

外部ルックアップ

新しいリンクトオープンデータ (LOD) エディタの一環として、Almaは新たなリンクドデータルックアップサービスを導入しています。これにより、目録作成者は目録作成ワークフロー内で、信頼性の高い外部ソースからエンティティを直接検索し、リンクできるようになります。

外部ルックアップサービスとは何ですか？

ルックアップサービスは、信頼できる情報源からライブデータを取得し、外部のリンクドオープンデータAPIとリアルタイムで通信します。目録作成者が外部ルックアップに設定されたフィールドを使用すると、Almaは目録作成者の検索入力情報と共に、選択されたソースへ直接APIコールを送信し、ソースが提供するコンテンツに基づいて、各エンティティに関する関連情報が表示されます。

これにより、目録作成者は次のことができるようになります：

- 信頼性の高いエンティティを検索する
- 詳細なメタデータを表示する
- 目録作成時に、心配することなくエンティティを選択し、レコードにリンクする

対応しているソース

Almaは次のソースに対応しています：

- 米国議会図書館の典拠サービス：
 - LCSH (米国議会図書館件名標目表)
 - LCSHキッズ
 - LCFGT (米国議会ジャンル/形式用語)
 - LC著者名
 - 説明認証アクション
 - 文化遺産団体
- ウィキデータ
- LOC制御語彙 ([フィールド設定](#)で説明されている通りです)

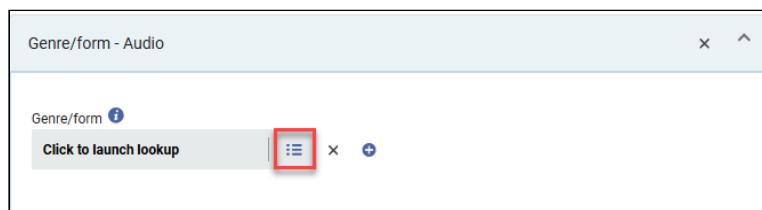
Note

お客様からのフィードバックと各ソースのAPI利用規約に基づき、対応ソースは今後拡大していく予定です。

ルックアップサービスをエディタに表示させる方法

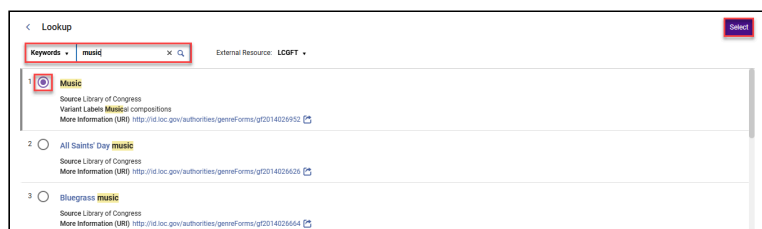
LODエディタを使用する際、フィールドの入力タイプが語彙、外部または内部ルックアップに設定されている場合、デー

タが入力されていない状態では、クリックしてルックアップを起動という、デフォルトのラベルが表示されます。



Lookup

フィールドを選択すると、スライドパネル開きます。外部ルックアップと語彙フィールドでスライドパネルが開くので、関連する用語を検索して選択します：



外部ルックアップサービス

目録作成者は次のことができます：

- 検索する用語を入力して検索を開始します。
- パネル上部のフィルターを使用してソースを変更します（外部ルックアップにのみで使用できます。語彙や内部ルックアップには使えません）。
- 選択したソースからライブ結果を表示します。
- ソースから入力値を選択します。

これにより、臨機応変で素早い反応が返って来るルックアップ体験が約束され、目録作成者は信頼性の高いデータを手軽に利用できるようになります。

外部ルックアップ用に設定されたフィールドに既に選択値が入力されている場合、次にそのフィールドのルックアップパネルを開いた際には、たとえそのソースが当該フィールドに当初設定されたデフォルトソースと異なっても、選択された入力情報のソースがデフォルト値として設定されます。

Note

外部ルックアップフィールドでは、ルックアップサービスはフィールド設定で選択されたデフォルトソースで開きます。

Note

語彙は、目録作成中にソースを変更するという柔軟性を備えていません。これは、特定フィールドで使用される制御リストの一貫性を確保するためです。また、柔軟性の必要性は典拠制御のケースとは異なります。詳細については、[フィールド設定](#)を参照してください。

ウィキデータ固有の機能

ウィキデータをルックアップソースとして使用する場合：

- 言語フィルターを使用すると、ラベルの優先言語を選択できます。ウィキデータが対応している20言語がリストの初めに表示されます。ドロップダウンリスト上部の検索バーを使用して言語を検索できます。
- 結果には次のフィールドが表示されます：
 - ラベル
 - 出典
 - 変数ラベル
 - 詳細情報（新しいタブで開くリンクURLを含む）
 - ウィキデーによる説明

米国議会図書館資料

米国議会図書館資料では、結果に次のフィールドが表示されます：

- ラベル
- 出典
- 変数ラベル
- 詳細情報（新しいタブで開くリンクURLを含む）

ルックアップサービス内での検索

ルックアップサービスは、サービスで設定されている各リンクデータサービスに直接APIリクエストを送信します。

各ソースや語彙に対する応答は、目録作成者の検索入力情報の精度に基づいて返されます。結果はアルファベット順ではなく関連性に基づいて表示されます。

Note

米国議会図書館の資料から得られる結果は、別題ラベルで一致した場合でも、正式ラベルで並べ替えられると順序が乱れることがあります。

さまざまなソースを検索するためのヒント

- アスタリスク（*）ワイルドカードは任意の文字数を表すために使用でき、検索文字列のいかなる位置にも配置できます。
- 疑問符（?）ワイルドカードは、単一の文字を表すことができます。
- 検索バーにアスタリスク（*）だけを入力すると、50件の結果がランダム表示されます。
- 語彙検索では、関連する検索結果を得るために、3文字以上入力する必要があります。典拠検索の場合は、1文字を入力するだけで十分です。
- 別のソースに切り替えると、サービスが再び有効になり、検索バーに現在入力されている値が自動的に検索されません。
- ウィキデータからの応答に別の言語を選択した場合、検索はウィキデータ内の別題ラベルにある英語ラベルと、選択した言語の両方で行われます。

- 一部の語彙には50件以上の値を持つものもありますが、検索文字列に基づいて一度に返される結果は50件のみです。
- 米国議会図書館はブール演算子 AND、OR、NOTを用いた検索に対応しています（ソースと語彙の両方）。

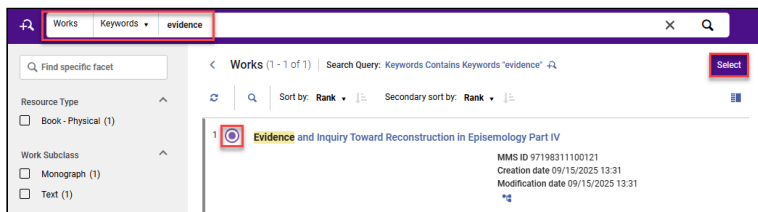
米国議会図書館APIサービスに関する詳細情報は、[技術センター：検索/クエリ](#)を参照してください。

ウィキデータAPIサービスに関する詳細情報は、[MediaWiki APIヘルプ](#)を参照してください。

目録作成時に内部ルックアップを使用する方法

内部ルックアップを使用すると、目録作成者はAlmaリポジトリ内で、特定のエンティティを別のエンティティにリンクできます。したがって、内部ルックアップフィールドを選択する際に開くスライドパネルは、フィールドに応じて「永続検索」「作品検索」「全タイトル検索」のいずれかになります。

- `bf:instanceOf` はインスタンスレコードの一部です。スライド式パネルでは作品検索が開きます。
- `bf:hasInstance` は 作品レコードの一部です。スライド式パネルでは全タイトル検索が開きます。
- `bf:relatedTo` およびそのサブプロパティはすべて、作品またはインスタンスの一部である可能性があります。そして、目録対象エンティティに一致する検索画面が開きます（作品の場合は作品検索が、インスタスの場合は全タイトル検索が開きます）。



内部ルックアップサービス

タイトルが選択されると、Almaは選択されたエンティティのラベルとURIの両方を、レコード内で編集時の現在のフィールドに追加します。

Note

内部ルックアップは現在、BIBFRAMEレコード間のリンクにのみ対応しています。「全タイトル」の永続検索を使用する場合、スライドパネルが開くと、デフォルトレコード形式 = LC BFインスタンスに設定された詳細検索フィルターが表示されます。簡易検索時にレコード形式ファセットを使用して検索結果を絞り込むこともできます。現時点では、BIBFRAMEとMARCレコード間のリンクには対応していません。